

令和4年度 授業改善推進プラン

1 本校における課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を意識しながら自分の考えを話したり、話の内容を正しく聞き取ったりすること。 ・自分の思いや考えを明確にし、相手や目的を意識しながら文章を書くこと。 ・語彙が少ないこと。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や資料等から自ら学習問題を見出し、単元を通して解決していこうという意欲をもち学習すること。 ・表やグラフ、写真などの資料を適切に読み取ること。 また、読み取ったことを適切に表現したり、問題解決に活用したりすること。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を正確に捉え、式を立てたり、問題を解決したりすること。 ・自分の考えを式や図表を用いながらわかりやすく説明すること。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識・技能を身に付けること。 ・問題解決の力を身に付けること。 ・有用性の実感及び理科への関心を高めること。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う力 ・日常生活における人との関わりの中での伝え合う力 ・言葉を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力 ・言葉がもつよさを認識する力や言語感覚 ・国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的をもって学習に取り組めるよう、明確で必要感のある学習課題や学習計画を設定する。また、児童自身がめあてをもって学習に取り組んだり、自分の学びを振り返り、次に生かしたりすることができるように指導する。 ・指導者が学習の系統性を意識し、児童の学習経験や既習事項等をしっかりと把握した上で、必要に応じて繰り返し指導したり、次の学習を見通して指導したりするなど、実態に応じた指導を行う。 ・感染対策に配慮しながら、話し合ったり伝え合ったりする場（ペア・グループでの話し合い）を意識的に設定する。 ・話したり聞いたりする必要感のある場面を設定する。また、話したり聞いたりするときのポイントやルールを分かりやすく具体的に提示する。 ・日常的に文や文章を書く機会を増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らす。 ・書くことにおいて、記述に入る前の題材設定、情報収集、内容・構成検討等の段階における指導を丁寧に行うなど、学習過程に沿って段階的に指導する。また、記述後の共有も大切にし、友達だけでなく自分の文章のよさにも気付けるようにする。 ・言葉そのものに興味をもたせたり、言葉のよさに気付かせたりするような指導を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習において、反復練習にとどまるのではなく、熟語を集めたり文中で漢字を使ったりするなど、日常生活の中で実際に活用する力につながるような学習をさせる。その際、辞書を活用するなどして、語彙を広げられるようにする。また、漢字そのものに興味をもたせたり、漢字のよさに気付かせたりするような指導を行う。
--	--

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に課題を追及する力 情報を選択、活用する力 社会的事象を自分の生活と関連付けて考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味関心を引き出す導入を行い、主体的に課題を追及することができるような学習活動を設定し、問題解決の過程を重視する。 地図やグラフなどの資料の見方を指導し、必要な情報を選択し活用させる。 情報機器を活用したり、現場の方の話を聞いたりする場面を取り入れて、社会的事象への関心をもたせる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題を正確に捉え、立式をする力 自分の考えをわかりやすく説明する力。 問題を解決していく力 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を正確に捉えるために、授業で問題を扱うときには、「どんな条件が提示されているのか。」「何を求めるのか。」を明確にして立式をさせる。 低学年では、「聞かれていること」「分かっていること」に線を引き、問題場面を整理して捉える習慣を付ける。 中学年以降では、既習事項を確認したうえで、図や表と関連付けながら、立式に取り組ませる。 学年相応の図や表を用いて、立式の根拠を明らかにする機会を増やしていく。 自分の考えをわかりやすく説明するためには、わかりやすく自分の考えを伝えるという目的意識をもたせた上で、自力解決に取り組ませることが大切である。 まず、一人一人が自分の考えをもてるよう、クラス全体で見通しを確認し、共有する。 次に、自力解決の時間には児童のよい考え方を称賛し、児童に自信をもたせた上で解決に取り組ませる。 そして、互いのノートを見合う中で分かりやすいものを全体に共有し、どのようにかけば、友達に自分の考えが伝わるのかを考えさせる。 算数は、系統的に内容が連なっている。本時で学習する問題も以前学習した知識を活用して解決にしていく。そのことを踏まえ、1時間で完結するのではなく、常に、「今日は、前回のこのような内容を活用して問題を解決した。」「次はこんな問題を解決してみたい。」などの、学習の振り返りをノートに書かせていく。このノートが学習の積み重ねになり、困ったときには自分のノートを振り返り解決の手だてとできる児童を育成する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象、現象についての理解と観察、実験などの基本的な技能 ・問題解決の力 ・自然を愛する心情や主体的に粘り強く問題を解決しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決において、各学年で重視する過程に力を入れ、科学的な思考の仕方を指導する。 ・身近ではない学習の際には、デジタル教材等を活用し、実感をもった理解ができるようにする。 ・有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会と学んだことを結び付けて考えさせるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域の生活に関わりながら、自分と身近な人々、社会や自然について考え、生活上必要な習慣や技能の習得。 ・身近な人々、社会や自然と関わる活動について考え、表現する力。 ・身近な人々、社会や自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとしたりする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校探検」を異学年で行い、学校の施設や学校生活を支えている人々について教え合う場の設定を行う。 ・第2学年では、地域の場所や働いている人々について、ICTを活用して授業展開を行う。 ・「植物や野菜の観察」をワークシートやICTで振り返ったりまとめたりすることで、次への意欲や願いにつなげる。 ・学校で飼育されている亀やおたまじゃくしなどの観察をしながら、生命をもち成長していることに気付いたり触れ合ったりする機会を設ける。 ・密を避け、コロナ禍でもできる体験的な活動を工夫して行い、自分自身の生活や成長を支えている人々に感謝の気持ちをもつ機会を設ける。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽・創作の基本的な技能を身に付けて表現する力 ・音楽的なものの見方・考え方をともに、聴いたり表現したりできる力 ・様々な音楽に興味をもち、自分なりの思いや意図をもって音楽活動する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別・少人数での基礎指導を行ったり、ペア・グループでの教え合いを通したりして、児童が互いに教え合う場を設定する。 ・鑑賞・音楽づくりを通して、音楽の要素と曲想との関わりや、曲の仕組みなどについて学びを積み上げる。 ・ワークシート学習やICT活用、学習形態の工夫、意見交流により、学びを深め、様々な音楽に興味をもつと共に、見通しをもって学習したり、学習の振り返りができたりするようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をする力 感性や想像力を働かせ、自分のイメージをもちながら意味や価値を創り出す力 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態や、発達に応じた題材の流れや、材料設定を行う。まず、児童が「やってみたい」「自分でもできそう」と思える導入を行う。児童が考える場面と、教師が教える場面とを組み立てて、「習得、活用、探求」という学びの過程を工夫する。 材料に触れ、試行錯誤する中で自分のイメージを表現できる題材を組み立てる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 生活を見つめ、家族の一員として家庭で実践する力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> I C Tや視覚的な教材を活用し、効果的に技能を身に付けられるようにする。 スモールステップで授業を進める。 実践的・体験的な活動を重視した学習を展開する。 目標が達成できたか授業ごとに確認する。 自分と家庭との関連を意識させ、家庭生活でも実践するように促す。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> 習得した知識及び技能を活用して課題解決する力。 体を動かす習慣がない子供が、主体的に運動に向かおうとする態度。 健康の大切さへの認識や安全に関する基礎的な内容の定着。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元や1単位時間におけるめあてを明確にし、児童ができたかどうかを自分で振り返られるような時間を設けたりワークシートを準備したりする。 週1度、朝の時間に設定されている学年遊びの内容を精選し、体を動かす時間や楽しさを感じられる機会を保障する。 養護教諭と連携し、保健の学習と子供の生活とを関連させて、学びを身近なこととして捉えられるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> 場面や状況に応じコミュニケーションを行う力 既習言語を用いた豊かなコミュニケーションを行う力 すすんでコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書、目標とされる言語を活用する場面が想定できるような写真や絵を活用して、具体的な状況や場面を想定しながら会話の工夫を考える。 担任教諭とNT（外国人講師）とのデモンストレーションを踏まえて、会話の工夫を考える。 担任が既習事項を振り返る時間を確保し、学習した知識を総動員してスピーチや会話の内容を考える。 形成的評価を実施し、児童の定着度に応じた授業計画を調整する。会話やスピーチを自信をもって実施できるような計画を立てる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪を判断し、すすんで きまりを守ろうとする態度 ・差別や偏見なく、思いやりの心をもって他者と関わろうとする態度 ・自他の生命を大切にしようとする心 ・目標に向かって努力しようとする心 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な導入、議論・話し合い活動、自己の振り返りの授業展開及び各場面において下記の工夫を取り入れることで、資質能力の育成を図る。 ・場面絵や ICT を活用しながら、効果的な教材提示を行い、道徳的価値に迫る授業展開を図る。 ・議論したり、話し合ったりする活動を取り入れることで、互いの考えを認め合ったり、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・自己を見つめる時間を設定し、これまでの自分の行動について振り返ることで、今後の実践意欲につなげる。 ・話し合い活動や自己を見つめる時間で自分の考えが書けない児童には、友達と「同じ」「似ている」「違う」等の意思表示ができるよう個別に支援する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく話し合いをすすめる力 ・見通しをもって取り組む力 ・自主的実践的に活動する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会では、話型を示した話し合いカードを用いて話し合いの流れを明確にすることができるようにする。話し合いの折り合いをつけることができるよう可視化し、操作できるような板書の工夫を行う。 ・学級の係活動や委員会活動の活動時間を意図的・計画的に確保できるようにする ・キャリアパスポートを活用し、行事や日々の生活を通して成長したこと、次に生かしたいことなどを一人一人が気付けるようにする。 ・委員会活動では、高学年の児童がより良い学校生活を目指して活動をすることができるよう振り返りを書いたり、活動内容が全校に周知できるような掲示の工夫を行ったりする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の力 ・協力して表現する力 ・分かりやすく表現する力 ・調べた情報を取捨選択する力 ・考えたことを実生活に生かす力 ・情報を活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「調べてみたい」「解決したい」「伝えたい」と思えるような導入の工夫をする。 ・他教科での学習を生かし、情報収集、整理分析、まとめ、表現する活動をくり返し行う。 ・調べた情報は付箋や思考ツール等を活用し、可視化しながら精選しやすくしていく。 ・調べたことを発表するだけでなく、調べたことを基に実生活や社会のために実践していけるような取り組みを行っていく。 ・プログラミング学習については、情報担当と連携し、教員同士での学び合いの場を設定したり、授業を見合ったりする。ICT 支援員を授業内でも効果的に活用していく。